障がい児ネットワーク事業

横山委員 新規事業だったが、１年間を通した活動の内容はどうだったか。利用者の声はどうか。

健康福祉課長 保護者の皆さんが集まり気軽に話しや情報交換する場ができたことは、評価する部分である。また、知り合いを通じて参加をされる方や、相談を受け福祉サービス利用につながった方もおられた。話を聞いてもらうだけで大変心も軽くなったという方もおられたようだ。

置賜成年後見センター

竹田委員 ４年度からの事業だが、実績や成果はどうか。

健康福祉課長 実績は、出張相談や電話相談などを通じて延べ１７６件の相談に対応し、さらには後見人の受任調整会議も５回開催をした。また、各市町を回っての住民や職員向けの成年後見に関する研修会も実施した。

白鷹町からは、延べ25件の相談があった。また研修会は、制度研修会を12月に開催し、福祉関係者や後見を受けられている方のご家族向けの研修を行った。

衛生費

ごみの排出状況

丸川委員 生活ごみの町民一人一日当たりの排出量はどのくらいか。

町民課長補佐 可燃、不燃を合わせた年間総量は２２９３トンでおおむね横ばいだが、一人当たりの量は４９６グラムで、人口減少を考えると増加傾向にある。

少しでも減らす工夫をしましょう

営農型太陽光発電の取り組み

佐々木委員 農地にパネルを設置して、営農と発電を同時に行う営農型太陽光発電について、本町における取り組み状況はどうなっているか。

町民課長補佐 農業経営の安定化と、地球温暖化や燃料価格高騰対策に期待があるが、農作業に支障をきたす面もある。先進地の視察を行っており、講習会などで認識を深めていきたい。

農林水産業費

農地タブレット

金田委員 農地タブレットを導入して、どのような効果があり、効率化が図られたか。

農林課長 タブレット端末を８台購入したが、アプリケーションソフトの開発が令和４年度末になったことから、年度内の稼働ができなかった。令和５年度になり、航空写真と地番図を重ね合わせた図面を見ながら、現地で場所の特定が可能になるなどの効果が期待される。